

IPERC News Letter

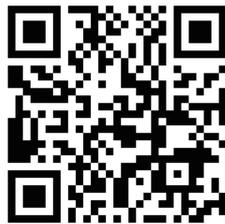
千葉大学大学院看護学研究院附属
専門職連携教育研究センター

2024年度版

『これからのIPEガイドブック』を上梓 Topics

▶『これからのIPEガイドブック』を上梓 しました

- IPERCの教員と国内のIPE関係者による書籍『これからのIPE（専門職連携教育）ガイドブック』（南江堂）の執筆、編集・校正作業が完了し、令和5（2023）年6月に上梓されました。
- このガイドブックは、IPERCによる亥鼻IPEの取り組みを基にして、IPEの基本的な考え方と知識をまとめたテキストで、医療系専門職連携教育の基本及びカリキュラムの組み立てから演習・実習を効果的に進行させるための授業開発といった内容となっています。本書の出版を通じて、現場の教員が困難を乗り越え、自信をもってIPE教育を構築・推進できるようになることを目指しています。
- IPERCからは下記のメンバーが編集者、執筆者となっています。
編集者：酒井郁子センター長、井出成美准教授、朝比奈真由美特任教授
執筆者（執筆順）：酒井郁子センター長、下井俊典特任准教授、井出成美准教授、関根祐子教授、臼井いづみ特任助教、石井伊都子薬剤部長、石川雅之助教、孫佳茹特任講師、山内かづ代特任教授、笠井大講師、伊藤彰一教授



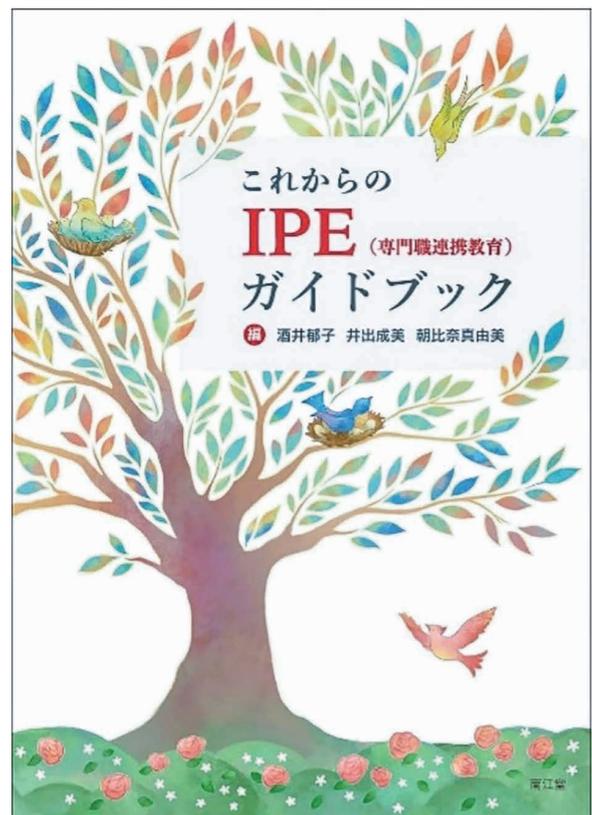
Webセミナーの公開

- 当ガイドブックのスピンオフ企画として、上梓に合わせて南江堂webセミナー『Get Smart IPE! -落とし穴の傾向と対策』を作成、公開しました。
- このwebセミナーは、IPEの設計や実装で困難を感じている看護教員からの問いに、ガイドブック執筆者が答えながら、IPEの落とし穴（ピットフォール）とその対策を解説する内容になっています。ぜひ一度、ご覧ください。



<https://www.nurshare.jp/article/detail/10502>

- ▶ 『これからのIPEガイドブック』を上梓しました
- ▶ 国際交流活動の活性化
- ▶ 亥鼻IPE
- ▶ 社会貢献活動



▶ 国際交流活動の活性化

世界展開力強化事業

令和4(2022)年度、本学のGRIP Program (「グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成(Global & Regional Interprofessional Plus Program)」が文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の1つとして採択、始動し、本年度は、同GRIPプログラムを軸に、グローバルIPEプログラムの開発と展開を加速させました。

GRIP



グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成プログラム
Global & Regional Interprofessional Education Plus Program

インド、オーストラリア、イギリスを相手国とし、地域ケア創生に関わる全学部および全大学院が参加し、国際的な「地域ケア創生ネットワーク」を構築することを目指すものです。医療系だけでなく、多分野の学部学生、大学院生を対象とした国際的なIPEプログラムを含んだプログラムになっています。

BMX

本学、関西大学(代表校)、東北大学の3大学合同事業「Blended Mobility Project (BMX)で生み出す『Society 5.0人材』の育成とそのインフラの創出」が、文部科学省の令和5(2023)年度の「大学の世界展開力強化事業 -米国等との大学間交流形成支援-」の1つとして採択されました。

千葉大学看護学部としては、当該事業をCOILの後継事業に位置付け、5年間のアラバマ大学、シンシナティ大学との看護学生同士の交換留学体制を構築します。

IPERCとしては、国際交流大学の拡充を念頭に、当該事業とグローバルIPEの連続性を模索するため、令和6(2024)年9月の学生派遣のための調査として、同年1月にシンシナティ大学との打ち合わせに下井俊典特任教授が同行しました。

亥鼻IPEへの外国人留学生の受け入れ

●令和5(2023)年7月10～21日、千葉大学、台北医学大学の両看護学部の交換留学プログラムで、台北医学大学看護学部の学生3名(2年生2名、3年生1名)が本校を訪問しました。



3名は孫佳茹特任講師から亥鼻IPEについて解説を受けた後、21日のStep2学習成果発表会を傍聴、最優秀発表への投票へも参加しました。

●孫佳茹特任講師が群馬大学IPEトレーニングコースで講演した際、インドネシア、ベトナム、モンゴルからの受講者から、亥鼻IPE Step3(オンラインコース)への見学希望が示されました。令和6(2024)年度より、当該教育機関からのオンライン形式の見学者受け入れの準備を進める計画です。

台湾2大学とのIPEプログラム開発

●令和6(2024)年2月16日、国立台湾大学看護学部とZoomミーティングを開催し、両学部の提携プログラムの可能性、IPEプログラムの開発の可能性について協議しました。

さらに同年3月に酒井郁子センター長・朝比奈真由美特任教授、孫佳茹特任講師が台湾を訪問、両学部間のIPEプログラム開発の可能性について協議を進める予定です。

●台北医学大学看護学部と進めている学生交流プログラムの試行事業として、令和5(2023)年7月に当該学部生3名を受け入れ、令和6(2024)年2月に本学看護学部生2名を派遣しました。



また、シミュレーションIPEとサービス・ラーニングの両分野のプログラム開発の協議を開始しました。

国外に向けたIPERCの取り組みの発信

●トルコのSemahat Arsel Nursing Education Practice and Research Center (SANERC)より、同センターが主催する「Interprofessional Education Workshop」(7月27日)の講演依頼があり、下井俊典特任教授が「Interprofessional Education in Japan」として、本邦および亥鼻IPEの現状と課題についてオンライン形式にて講演しました。

●第10回群馬大学IPEトレーニングコース(8月23～27日)にて、孫佳茹特任講師が「Development, Operation, and Future Expectation of Inohana IPE」と題して講演し、フィリピン・ベトナム・モンゴル・インドネシア・タイ・マレーシア・韓国、計7か国から専門職が視聴・参加しました。

新しい交換留学制度の創設にむけた取り組み

●GRIPの後継事業として、4か国間交換留学制度の創設に向けた取り組みを計画し、12月8日、Anderson教授(レスター大学、CAIPE副理事長)、El-Awaisi教授(カタール大学)、Nyoni教授(南アフリカ、フリー・ステート大学)とのキックオフ・ミーティングを開催しました。

今後、同取り組みをJAIPEとの情報共有ならびに協働させて、国外IPE・IPC団体への情報発信などに連続させることを計画しています。

ATBH (All Together Better Health)での発表

●IPE・IPCの国際学会であるATBH (All Together Better Health)にて、本学GRIPの取り組みを発表しました。



▶ 亥鼻IPEの教育活動

■ Step1-4の実施

●概要

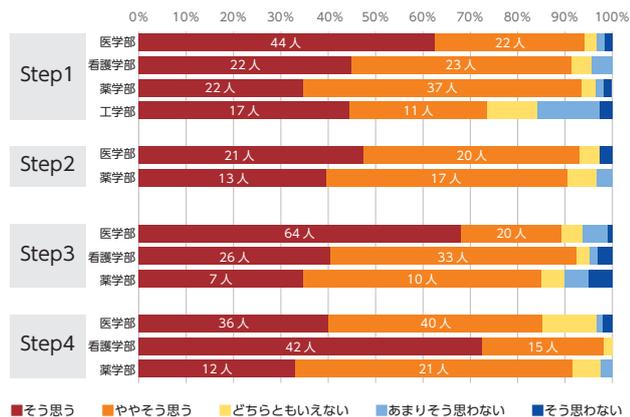
令和5（2023）年度は、COVID-19の感染法上5類に引き下げられたことにより、Step1・2・4については、講義はオンライン、グループワークは対面形式での実施を再開しました。本年度、亥鼻IPEを受講した学生は、総計1120名でした。また、本年度も模擬患者さん、計36の保健医療福祉施設、のべ185名の教員・専門職の皆さんに多大なご協力をいただきました。ありがとうございました。

●授業評価アンケートによる学生からの満足度評価

本年度はStep1・3・4で医学部生の満足度が高く、相対的に薬・工学部生の満足度が低いという結果となりました（ $p < .05$ ）。昨年度も同様の傾向がStep1～3に認められました（ $p < .05$ ）。また、「ふれあい体験実習や、インタビューを通し、医師、薬剤師、看護師はどのような役割を果たすか比較的分かりやすかった一方、医工学に焦点が当てられる事は少なかった」という自由回答もありました。

2023年度 ステップ・学部別授業満足度

(Step 2 看護学部は調査できず)



▶ 社会貢献活動

■ 医学部附属病院総合医療教育研修センターとの協働

令和5（2023）年度から総合医療教育研修センターと看護部キャリア開発室が統合し、総合医療教育研修センターとなりました。IPERCは、これからも同センターと協働して各種研修の開催と、病院全体のIPWプログラムの開発を行っていきます。

●新入職員研修（4月3日）の「専門職連携（IPW）」を担当しました。

●特定行為研修（8月2日）におけるチーム医療演習に協力し、情報伝達スキル、カンファレンスの基本動作、対立の解決のストラテジーについて演習を実施しました。

●中途採用者研修（10月25日）にてIPWをテーマにワークショップを実施しました。

これらのことから、医療分野と工学分野の連携に焦点を当てた授業内容が不足していることが考えられるため、今後、授業コンテンツの点検・改善を図っていきます。

●5年間の学生によるグループワークに対する自己評価

Step1において、グループワークがオンライン形式（2021・22年度）よりも対面形式（2018・19・23年度）の方が、学生によるグループワークに対する自己評価が高いことが明らかとなりました（ $p < .05$ ）。この結果は、研究報告としてとりまとめ、第16回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会にて発表しました。

■ CIPE（クリニカルIPE、診療参加型IPE）の試行と必修化の模索

●概要

附属病院5診療科5病棟において、7月18～28日の日程でCIPEを開講しました。当該実習には、合計7グループ23名（医学部5年生7名、看護学部4年生9名、薬学部5年生7名）が参加し、医師6名、看護師6名、薬剤師13名を中心に、多くの専門職に指導協力をいただきました。

●学習成果

実習後の自己評価アンケート（11項目）では19名の学生から回答があり（回答率86.2%）、「できた」・「ややできた」を合わせた回答が、どの項目も9割以上でした。

●臨床実習・臨地実習におけるクリニカルIPE拡充のためのモデル病棟/地域病院構築（通称「デイリーIPE」）

CIPEの発展形として、学内外の医療系学生へのIPEが日常的、継続的に行われるための教育体制を構築するためのモデル病棟（大学病院、地域病院）を構築するプロジェクトが始動しました。

■ 亥鼻FDプロジェクト

令和6（2024）年3月14日、埼玉医科大学医学教育学の柴崎智美教授・米岡裕美准教授を講師として迎え、「連携実践における職種理解 -キャラ化ワークショップの試み-」として、職種間の理解を促進するワークショップとそのファシリテーションについて講義とワークをオンライン開催しました。

■ IPERC主催IPE・IPW研修

IPERC主催のIPE・IPW研修は、本年度もオンライン形式にて開催しました。

参加者：

IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修	： 2名
IPWベーシック研修、IPWマネジメント研修 理論編	： 31名
IPWベーシック研修 実践編	： 63名
IPWマネジメント研修 実践編	： 8名

■ 『認知症専門職における多職種協働研修』

千葉県からの委託事業として、令和5（2023）年12月23日、令和6（2024）年1月28日の2回、『認知症専門職における多職種協働研修』を対面形式にて開催しました。県内各地から合計104名の現任者の参加がありました。

講師派遣依頼

- 酒井郁子センター長が学術集会長を務める第28回日本老年看護学会学術集会（6月16～18日）の、教育セミナー「いまさら聞けないIPEのこと -老年看護学との接点-」にて、井出成美准教授が「看護学系教育機関におけるIPEの授業設計」と題して講演しました。
- 第55回日本医学教育学会（7月28・29日、長崎）の学会連携企画2シンポジウム「モデル・コア・カリキュラムを軸とした共にお互いからお互いについて学び合うための多職種連携教育の設計」にて、酒井郁子センター長が座長を務め、井出成美准教授がシンポジストの一人として「基礎教育で身につけるべき連携協働能力 IPEの哲学に基づく学習到達目標と学習方法」と題して登壇しました。
- 藤田医科大学にて開催された第16回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（11月26日）のIPEパネルディスカッション「私が実践している多職種連携教育 ～うまくいっていること、



困っていること～」にて、下井俊典特任准教授が座長、およびパネリストの1人として登壇し、前職での経験と比較しながら亥鼻IPEの現状と課題を報告しました。

- その他、大学、学会、職能団体、大学以外の教育機関、学内附属病院、保健医療福祉機関などから教職員・学生などへのIPE関連の講義・セミナー・研修の講師依頼は合計45件（うち海外2件）となり、昨年の約1.2倍となりました。

研究協力依頼

CICS29（専門職連携実践能力、自己評価尺度）の使用申請を10件許諾しました。

教材開発類

- 「介護職向けDスタ事業」（ドクターメイト株式会社）の教材作成
ドクターメイト株式会社は「介護職向けDスタ事業」という介護職向けe-ラーニング教育サービスを提供している企業で、井出成美准教授、孫佳茹特任講師、臼井いづみ特任助教が、当該事業向け動画コンテンツを制作しました。

研究

第16回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会長賞受賞

第16回日本保健医療福祉連携教育学会（11月26日）にはIPERCから3演題発表、ならびにシンポジウムへの座長・シンポジストとしての参加もあったことから、IPERCが同学術集会長賞を受賞しました。



研究成果

論文14本（うち、原著および査読付き論文13本）、学会発表23本、シンポジウム招聘17回。

人員異動

4月1日付にて、下井俊典特任准教授が着任しました。

事業評価

教育、実践・社会貢献、組織運営では、すべてA評価を頂きました。研究については、A評価3名、B評価2名という結果となりました。

IPERCの取組について、展開プロセスや展開方法の組織論的・大学経営論的な考察と含意は、全国や世界の高等教育機関にとって参考になるとのコメント等を頂きました。

令和6年度 研修のお知らせ

IPEカリキュラムマネジメント&授業開発研修

【費用】 100,000円（2日間）

【日程】 令和6年8月24日（土）・11月23日（土・祝）

IPWマネジメント研修

理論編 【費用】 10,000円 eラーニング（定員100名）

実践編 【費用】 20,000円

【日程】 令和7年1月25日（土） ZOOM開催

（定員10名、理論編を受講済みの方対象）

詳しくはHPをご確認の上、お申し込みください。

<https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>



IPWベーシック研修

理論編 【費用】 10,000円 eラーニング（定員150名）

実践編 【費用】 1講座 6,000円

【日程】

令和6年10月8日（火） 職種間の理解

令和6年10月22日（火） チーム内の効果的な
コミュニケーション

令和6年11月5日（火） チームワークの促進スキル

令和6年11月26日（火） 対立の解決

令和6年12月10日（火） 多職種カンファレンス

いずれも17:00～20:00 ZOOM開催

（各定員30名、理論編を受講済みの方対象）

【発行】 千葉大学大学院看護学研究院附属 専門職連携教育研究センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 <https://www.n.chiba-u.jp/iperc/>

☎ 043-226-2614 ✉ inohana-ipe@office.chiba-u.jp 2024年7月1日 通巻6号